

声量豊かで表現力に富んだ歌い方にするために

個人レッスンと合唱では

『レッスンではピアノが歌に合わせ、楽譜も（基本的には）見ないので自分の発声バランスを維持できるが、合唱では指揮に合わせなくてはならず、尚且つ指揮を見なければならない』という横隔膜を押しすることに繋がる大きな環境の違いが存在します。

これまでの稽古で皆さんが出している声はほぼ全員が横隔膜を押しつけて歌っている為、本来持っている声量の4分の1程度しか出ていません。

もっともっと声量をアップし、声を十分に鳴らすという感覚を理解する為、今日の稽古では以下の事を意識してみてください。

①指揮のタイミングに合わせて吸うのではなく、1～2秒前に定石通りの『フワッを**見せる**ことが嬉しい』で心のアペルトのモードを作り待っておく。

現状では吸うタイミングが指揮に合わせた『せ～の～』のタイミングになっているので『合わせよう』という意識によって横隔膜を下に押しつけてしまっています。

②指揮棒を追うのではなく、ファルセットのおでこの表情を指揮者に見せて下さい。

視界の中でおぼろげに指揮されている様子を察知するだけで留めて下さい。

意識して見ようとする事で横隔膜を下に押しつけてしまい、声が喉に張り付いてしまっています。

(暗譜出来ていない箇所は楽譜の歌詞の部分と指揮者の両方におでこの表情を見せる)

③ピアニッシモが要求される箇所であっても①のブレスを変えない。

内面の満足、嬉しさ、心のアペルトが無いと母音の響きを頼りないポジションで支えることが出来ない為、響きから表現力が消えてしまいます。

以上宜しくお願い致します<m()m>